



TITLE:

新刊紹介

AUTHOR(S):

CITATION:

新刊紹介. 天界 1935, 16(176): 47-47

ISSUE DATE:

1935-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167149>

RIGHT:

1764年 四月 1日
 1766年 二月 9日
 1778年 六月 24日
 1780年 十月 27日
 1791年 四月 3日
 1806年 六月 16日
 1820年 九月 7日
 1821年 三月 4日
 1831年 二月 12日
 1834年十一月 30日

英 スキーデン
 南阿
 スペインの Ulloa 將軍 “Baily 粒” を見る。
 米國ハワード大學遠征 “Baily 粒” を見る。
 金環食 北米東部
 米國
 金環食 ノルエー獨
 スマトラ島
 金環食 米國
 米國

新刊紹介

理學士 鈴木敬信氏著 “宇宙” 東京 恒星社 ¥ 3.20

東京科學博物館の天文部主任として既に廣く知られてゐる鈴木理學士が“古代宇宙觀から膨脹宇宙說まで”各時代の天文學者が企圖したさまざまな天體宇宙觀を極めて親切に順序よく書かれたのが此の書である。四六版ながら本文 569頁、それに索引18頁を添えた堂々たるもの、内容に98枚の寫眞や圖版と、13種のモダンな表もあつて、之れが洋書ならば今どきザツト15圓も取られるのだが、僅かに3圓内外で手に入るとは日本書の有難みである。鈴木氏の文は誠に読み易く、學術語も二三を除けば極めて妥當なものを用ゐ、甚だ適切である。尤も此の書は宇宙論史を主題としてゐるため、内容が實用天文學にわたつてゐないのは承知の上で讀まねばならぬ。元來、天文學の主な目的は「宇宙の研究」にある。故に此の書の内容こそは最も本格的な天文學そのものである。經緯度や時刻の研究は要するに天文學の副産物であるのだから。(山本)

晝間見える星

拜啓 大へん好い時候になりました。ヴェネナスも光輝いよいよ盛んになりました。私は此頃肉眼にて晝間見て居ります。昨日は午後零時半まで見ました。晝間星を見て居ると思ふと浮世ばなれがします。天文臺でも誰か見られませんか、光度負4.3等の時にはよく見えます。朝明るくなる頃から一時間位づゝ間をおいて段々西に動くのを望見するのです。午前九時半頃には南中になります。此度は何等星まで晝間肉眼觀望が可能かを知りたいと思つて居ります。

10月6日

静岡 藤田 六郎